

J-STAGE NEWS :

1-2LIVE

J-STAGEニュース

No. 36

ISSN 1346-1990

2013年10月25日発行

独立行政法人
科学技術振興機構

電子ジャーナルの最新情報をおとどけるJ-STAGE機関紙

今号のおもな記事:

- 科学技術情報発信・流通総合システム事業方針検討有識者委員会報告
- 投稿審査システムご利用学協会様向けアンケート等にご協力ありがとうございます
- 2013年度 J-STAGE 機能拡張について
- 本年度の図書館総合展に出展します!
- 国際会合において J-STAGE の紹介を行いました
- 投稿情報をジャーナルトップページに表示し投稿数アップを! ほか



科学技術情報発信・流通総合システム事業方針検討有識者委員会報告

J-STAGEにおける今後のサービス方針等を検討し、提言を行う「科学技術情報発信・流通総合システム(J-STAGE)事業方針検討有識者委員会」が報告書をまとめ、公表されました。

「J-STAGE のサービス方針について

(科学技術情報発信・流通総合システム事業・方針検討有識者委員会報告書にもとづく方針)【概要資料】

https://www.jstage.jst.go.jp/pub/html/pdf/AY04S260.files/130814_shiryoy1.pdf

「科学技術情報発信・流通総合システム(J-STAGE)事業のあり方について(報告)【報告書全文】

<https://www.jstage.jst.go.jp/pub/html/pdf/AY04S260.files/130726.pdf>

報告書では、昨今の経済・社会情勢等を踏まえ、J-STAGE において施策・サービス重点化の観点から選択的に資源を投入すること等が提言されています。これに基づいて JST では、順次サービス内容の見直しを進めてまいります。具体的には、J-STAGE のミッションである「国内発の科学技術(人文・社会科学を含む)論文情報の国際発信力強化」にてらし、日本学術振興会(JSPS)や国立情報学研究所(NII)における支援スキーム・サービス等とのコラボレーションをはじめ、著者 ID や研究データ公開など電子ジャーナルをめぐるトレンドへの積極的な対応を選択的・重点的に行うとともに、BIB フォーマットから XML フォーマットへのさらなる移行推奨、一部のオプションサービス(J-STAGE 投稿・審査システム(EM タイプ・SM タイプ))への一部自己負担導入等を行い、より効率的・効果的なサービス展開をめざしてまいります。学協会の皆様、閲覧者の皆様のご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

なお、本件についての J-STAGE 利用学協会様向け説明会を、8月9日に東京、8月29日に京都で実施いたしました。ご多忙の折にもかかわらず多くの皆様にご出席いただき誠にありがとうございました。概要および当日の質疑応答等については、以下からご確認いただけます。

J-STAGE ご利用学協会説明関連資料

https://www.jstage.jst.go.jp/pub/html/AY04S260_ja.html#130726

科学技術情報発信・流通総合システム事業方針検討有識者委員会
による提言(まとめ) :

- J-STAGEは利用学協会とJSTの積極的協働により運営される事業である
- 厳しい財政状況の折、科学技術情報電子化の健全な進展を促進する文脈において、より効果的・効率的に運営されるべき
- J-STAGE利用学協会においても、自らの発信する電子ジャーナルの刊行を健全に継続するための体制整備や人材育成等、あるいは複数の学協会における連合・連携体制構築等を着実に進めていく必要がある
- J-STAGEが日本発の国際的な電子ジャーナルサイトとして存在感を保ち、今後も適切な資源投入のもと健全に運営されるよう、関係各方面における一層の協力・連携が強く期待される
- J-STAGEにおける取組みの効果を最大化するためにも、JSPSおよびNII等関係機関との緊密なコラボレーションをさらに推進する必要がある



8/9 説明会(東京会場)の様子。

投稿審査システムご利用学協会様向けアンケート等にご協力ありがとうございます

有識者委員会報告等を踏まえ、JST では J-STAGE 投稿・審査システムをご利用の学協会様に対し順次アンケート等のご案内を実施しております。該当する学協会様は何卒ご協力をお願いいたします。今後とも重要なご案内を差し上げてまいりますので、J-STAGE の投稿審査システムをご利用中で、JST からのご連絡が届いていない学協会様がいらっしゃいましたら、JST までお知らせください。

お知らせ：

本件アンケート（準備調査）において、「学協会様の会員数」をうかがっております。原則として、年会・総会等で議決権のある会員数をご記載いただいておりますが、代議員制をとっている学協会様の場合、本調査時には以下のような条件でご申告くださいますようお願い申し上げます。詳細は順次ご案内してまいります。

・代議員制をとっている学協会の場合：

代議員制等をとる学協会にあっては、その選出（または承認）等に際して投票（選出）権、または被選出権のいずれか、または両方を有する会員について、当該の会員数に算入ください。

その選出（または承認）等に際して投票（選出）権、または被選出権のいずれも有しない会員については、当該の会員数には算入不要です。

2013年度 J-STAGE 機能拡張について

J-STAGE では、閲覧者の皆様・利用学協会の皆様の利便性向上をめざし、今年度も引き続きシステムの機能改善・拡張を鋭意実施中です。

2013年のおもな開発予定（公開系）

1	COUNTERレポート Rel.4（最新版）に対応
2	ORCID データ受け入れに対応
3	ブラウザの新バージョン対応検証（IE9、Chrome（Windows 7））を実施 （プログラム改修が必要な場合は順次対応）
その他の おもな 機能拡張・ 改修	目次論文タイトル表示をより見やすく改善 巻・開始ページ検索機能の改善 詳細検索機能強化（タイトル検索対象に、主タイトルだけでなく副題も含めることとします） Quick 検索機能挙動をより使いやすく改善 ダウンロード書誌情報等に DOI 情報を追加 おすすめ記事表示件数の拡張 ほか

編集・掲載システムの機能拡張項目等、詳細につきましては以下で公開しております説明資料をご覧ください。
https://www.jstage.jst.go.jp/pub/html/pdf/AY04S260.files/130814_shiryu2.pdf

本年度の図書館総合展に出展します！

10月29日～31日の日程でパシフィコ横浜（横浜市）にて開催される「第15回図書館総合展」にて、本年も J-STAGE など JST の情報サービスをご紹介する展示を行います。今年は JST 情報サービスの課題解決ツールとしての有効性に着目し、事例紹介なども交えたご案内なども行われる予定です。また J-STAGE と連携するジャパンリンクセンター（JaLC）では「スマートに DOI 登録！ ジャパンリンクセンターの活用」と題してフォーラムを会場内にて実施いたします（10月29日（火）15:30～17:00）。みなさまのご来場を心よりお待ちしております（入場無料）。



学術情報 XML 推進協議会講演会 (J-STAGE セミナー) 報告

2013年7月30日、学術情報XML推進協議会とJSTの開催する講演会(J-STAGEセミナー)「PMC搭載とXML作成ーOAプラットフォームとしてのPMCとその掲載の実際ー」がJST東京本部において行われました。J-STAGE 利用学協会・閲覧者の皆様からも広くご参加をいただきました。誠にありがとうございました。

講演会では、編集からデータ作成・登載にいたるXMLの運用等について、関係者の皆様から実践的な事例をもとに紹介が行われました。

JST では、今後も各機関と共同して、最新のトピックや事例をご紹介するセミナーを企画してまいります。どうぞご期待ください。



国際会合において J-STAGE の紹介を行いました

日中韓三カ国の科学技術情報関連機関(中国科学技術情報研究所(ISTIC)、韓国科学技術情報院(KISTI)、および JST)が各国における科学技術情報流通の現状やノウハウを共有しあう年次の国際定例会合「The 4th Japan-China-Korea SciTec Information Joint Seminar」(JCK 会合)が、2013年9月9日・10日、JST 東京本部を会場に開催されました。JST からは、J-STAGE をはじめ、J-GLOBAL foresight やジャパンリンクセンター(JaLC)、ReaD & ResearchMap 等各サービスの現状や今後の事業展開方針などについて報告が行われました。

またこれとは別に、2013年8月3日、東京で開催された「アジア太平洋医学雑誌編集者会議」(APAME 2013 Tokyo)において、JST から J-STAGE とジャパンリンクセンター(JaLC)の紹介を行いました。海外の複数の発表者からも J-STAGE サービスについての言及があったほか、並行して行われたポスター展示では参加者から閲覧条件に関する質問が寄せられるなど、高い関心が示されていました。



JST 東京本部会議室で行われた JCK 会合

JST 知識基盤情報部の新体制について

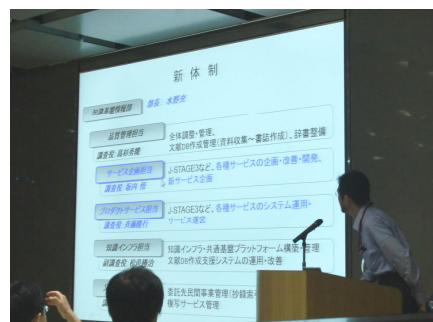
2013年4月、JST 知識基盤情報部の改組が行われました。今回はこれまで基本的にサービス単位であった担当(課)を再編し、サービス横断的な事業実施体制とすることで、JST における情報サービスのより効果的な提供をめざすものとなっています。

これにより、J-STAGE の開発運用等を業務としていたこれまでの「電子ジャーナル担当」は、J-GLOBAL など他の JST 情報サービスの提供を行う部署とともに「プロダクトサービス担当」として生まれ変わりました(各サービスに実装される新サービスの企画立案は、こちらも新設された「サービス企画担当」が中心となって業務を遂行いたします)。なお、この改組にともなう JST および学協会様向け J-STAGE センターの連絡先等に変更はありません。

今後も利用学協会の皆様と一丸となって、より効果的かつ効率的なサービス展開を行うべく担当スタッフ一同、なお一層の努力をしておりますので、引き続き J-STAGE をはじめとする JST の情報サービスをご活用くださいますよう、よろしくお願ひいたします。



JST 知識基盤情報部長
水野 充



J-STAGE 利用学協会説明会において、プロダクトサービス担当調査役 齊藤 隆行より、新体制についてご報告いたしました。



投稿情報をジャーナルトップページに表示し投稿数アップを！

視認性の高いジャーナルトップページのメニューカスタマイズ機能が活用できます

J-STAGE では、J-STAGE 投稿・審査システムご利用の有無に関わらず、ジャーナルトップページに投稿者向けの情報を表示することができます。

一般に、良質な投稿を増加させるためには、スコープや投稿の条件・手順、エディトリアルボードなどの情報を見やすい箇所に表示しておくことが効果的といわれています。すでに学会ウェブサイト等に当該の情報が掲出されている場合には、J-STAGE 上からリンク設定などで簡単に案内することも可能です。まだご利用でない学協会様はぜひ活用をご検討ください。

設定は編集・登載システムから自由に行うことができます。

なおこれに関連いたしますが、発行機関連絡先情報もジャーナルの品質を担保する上で非常に重要な情報です。メールアドレス等の連絡先に変更が生じた利用学協会様は、お早めにご変更くださいますようお願い申し上げます(JST からのご案内もこちらで登録いただいた連絡先に発信しております)。

まだまだあります、ジャーナルページのカスタマイズ機能

J-STAGE にはこの他にも、ジャーナルのヘッダ画像を差し替えたり、カバー画像(下図の J-STAGE ロゴ部分)を自由に変更したりできます。また、ページカラー(配色)もデフォルトの青色から他の色に変更することが可能です。J-STAGE ではジャーナルの個性・印象を引き立てる、デザイン性と視認性を考慮した多彩な 12 色のカラーパターンをご用意しております。どうぞご利用ください。



その他、学協会からのお知らせやおすすめ記事の情報なども掲載することができます。

いずれも編集・登載システムから設定が可能ですので、詳しくは J-STAGE 上に掲載のマニュアルをご覧ください(なお一部、操作やカスタマイズ設定の適用範囲等にシステム上の制限のある場合がございます)。

利用学協会の皆様におかれましては、ユーザ(閲覧者)への訴求力の高いページ構成をめざし、こうしたページカスタマイズ機能をぜひともご活用くださいますようお願い申し上げます。



上記のメニューを自由に設定可能です。
ぜひご活用ください。(日本語・英語で表示可)

(...) I want to submit my research manuscript to your journal (...). But, I can not find the submission link in your web site of The Journal (...)

(上) J-STAGE トップページ宛に着信した投稿者からのメール(一部)。このような問い合わせが多数着信しております。可能な限り各ジャーナルに転送しておりますが、ワンストップで案内することで、投稿の機会損失を防ぐことができます。



編集後記

♪ 今号では簡単にお使いいただける J-STAGE ジャーナルページのカスタマイズ機能をご紹介いたしました。この他にもご存知のように、SNS を活用したり(最近 Twitter に転載可能な「140 文字抄録」を投稿規程に盛り込んだジャーナルが登場して話題になりました)、Youtube などの動画サイトに論文関連ムービーを掲載したりと、必ずしも金銭的な投資によらないジャーナルプレゼンスの向上策が世界各地で試みられています。要注目トレンドですね!(ao)

J-STAGE ニュース No. 36 2013年10月25日
 編集: 独立行政法人 科学技術振興機構 (JST)
 知識基盤情報部 サービス企画担当・プロダクトサービス担当
 発行人 知識基盤情報部長 水野 充
 〒102-0081 東京都千代田区四番町 5-3 サイエンスプラザ
 電話 03-5214-8837(ダイヤルイン)
 E-MAIL contact@jstage.jst.go.jp

